



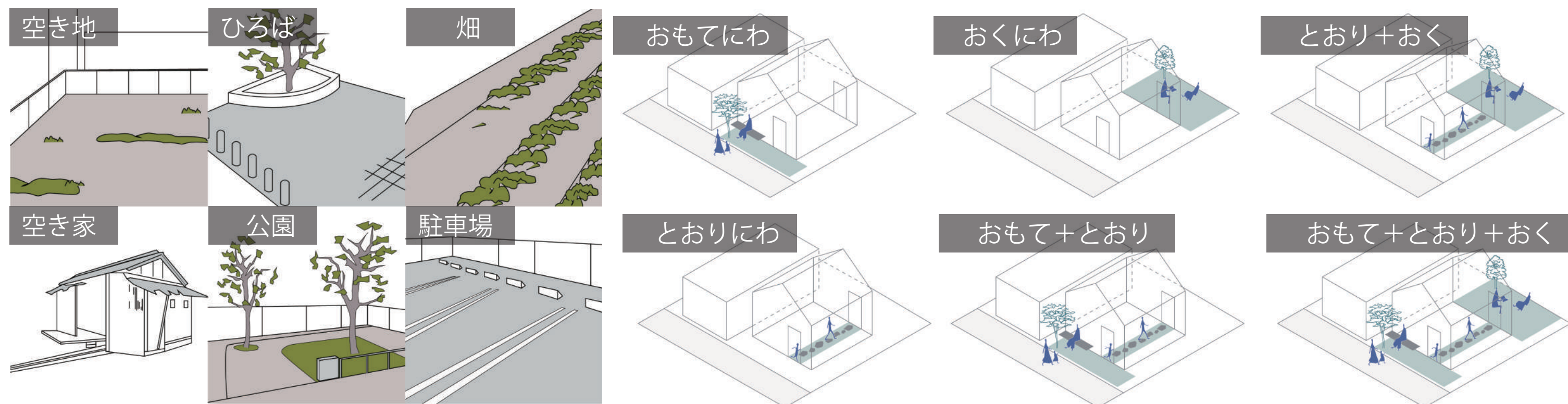
Prof. MIYAGI Shunsaku
M2 Rina SUGIMOTO
M2 Yuto MIYAZONO
M2 Karin RYU
M2 Nanato WAKAMATSU
M1 Taichi AMAYA
M1 Naohiro OTOYAMA
M1 Keisuke SAHASHI
M1 Yusuke MORIYA
B4 Tamayo SUSAKI

「まちにわ」ネットワークの形成

Formation of “Machi-niwa” Network

地域や活動の概要 | 維持されるオープンスペースの使いこなし

Background | Putting maintained open spaces to use



宇治プロジェクトは宮城先生が東京大学に着任された 2019 年から活動を始めている。中宇治地域で地域住民へ焦点を当てたまちづくりとして、点在する駐車場・空き地・空き家などの低未利用地を「まちにわ」と定義し、それらを繋げて回遊性を向上させるための取り組みを行っている。

「まちにわ」は用途だけでなく、通りとの関係からも分類できる。みちに面する空地が、街区内部の空地まで接続することで、周辺と多様な繋がりがうまれる。

活動内容 | まちにわの考察と実装

What we have worked on | Analysis and implementation of “machi-niwa”



2021 年度から実施しているこども WS は、宇治に住む子どもを対象にした、飲食・体験を行える WS。

2022 年度は 6 月に第 4 回、11 月に第 5 回を開催した。

一連のワークショップで、「まちにわ」のポテンシャルを子どもならではの視点で再発見するとともに、実際に「まちにわ」をつくり、使ってみるを通して、地域の環境や将来に関心を持っていたく機会になった。

また、慶應 SFC 石川初研究室や、京都文教大学森研究室、地元の多数の団体との協働により、具体的なアクティビティにも幅を持たせて、多面的なイベントを開催できた。



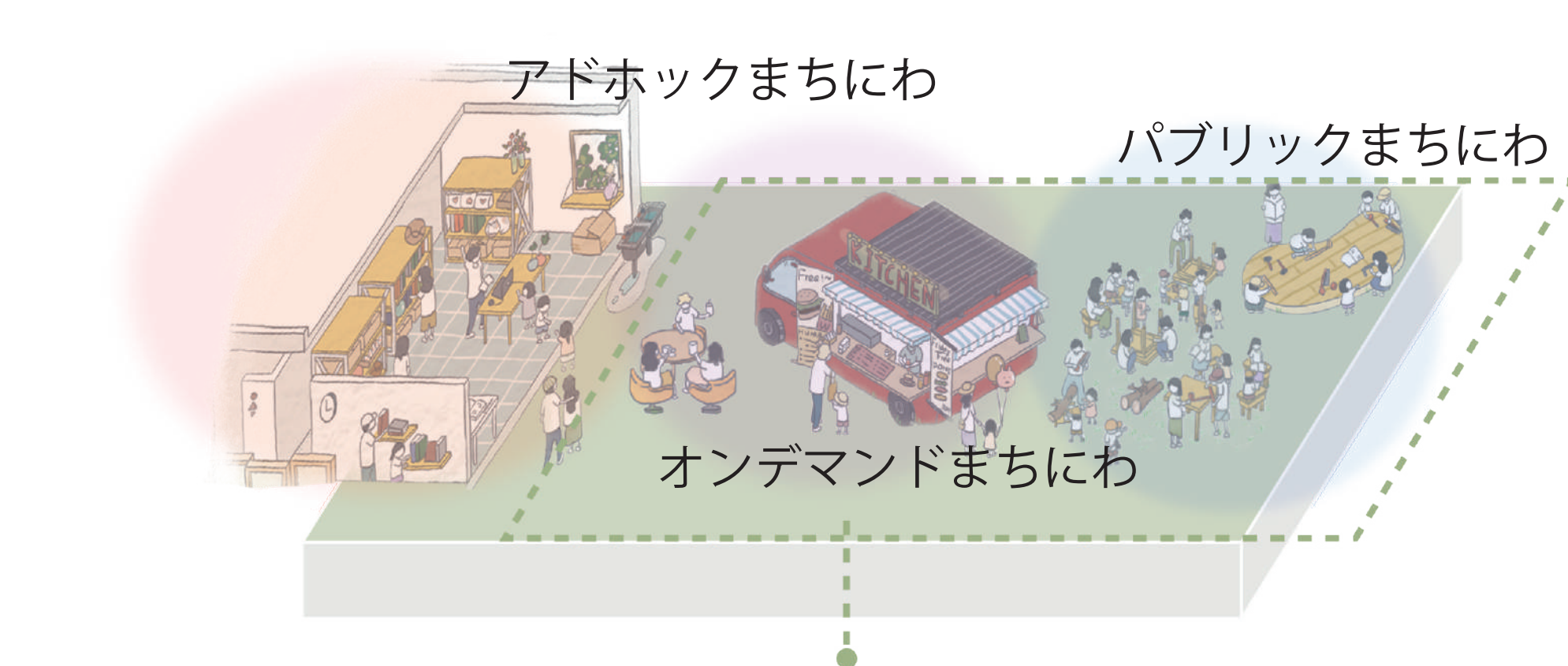
まちにわのポテンシャルのある空き家で、茶道教授が茶室スタジオをオープンすることになり、改修の実施設計を担当している。

2023 年 4 月 9 日時点で、教室に使われる 8 畳の茶室と、その他設備関連の改修が竣工している。今後は、庭や小間の茶室の設計・工事を進める。

今後の展開 | 4 つの新たなカテゴリー

Future vision | Four new categories

イベント時



運営主体 (operator)



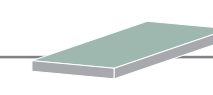
→法人や個人、各種団体や市民活動グループなど、多様な組織が対等に参画するゆるやかな運営のありかたを理想とする

情報発信 (public relation)

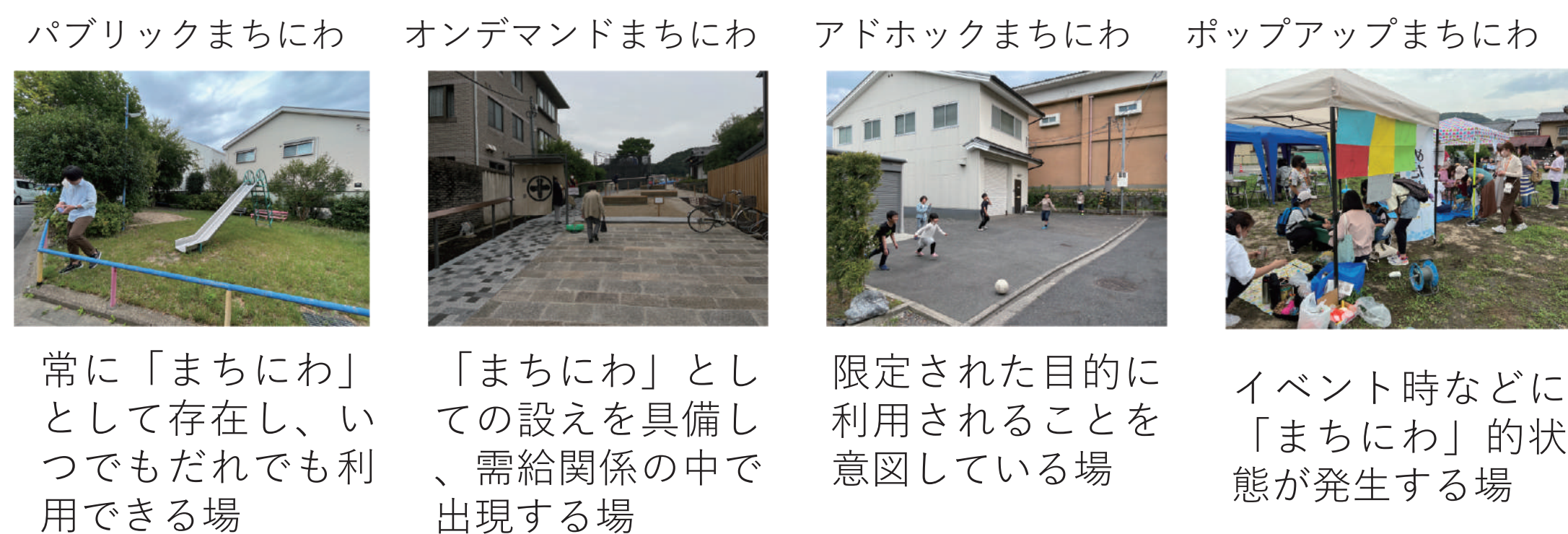


→情報発信の主体と媒体の多様化

まちにわの実装 (anchor)



→市役所 公園緑地課・市民協働推進課・道路管理課によるパブリックまちにわの実装



常に「まちにわ」として存在し、いつでもだれでも利用できる場

「まちにわ」としての設えを具備し、需給関係の中で出現する場

限定された目的に利用されることを意図している場

イベント時などに「まちにわ」的状態が発生する場

まちにわでの実践を通して、現象として 4 つのまちにわが立ち上がってきた。いつでも使える「パブリックまちにわ」、需要に応じて出現する「オンデマンドまちにわ」、限定された目的に利用される「アドホックまちにわ」、イベント時に一時的に発生する「ポップアップまちにわ」の 4 種類である。これらを接続することを意識しつつ、多様な組織が主体となるガバナンス、情報発信の多元化、より細かい行政の関わり方を提案し、「まちにわ」概念は深化した。属性の分析でなく現象の観察から生まれた 4 類型と、管理・運営まで踏み込んだまちにわの実装像により、2023 年度は使いこなしの実践を続けながら、新たな「まちにわ」の像を模索していきたい。